

# 令和7年度 第2回浜田市総合教育会議議事録

日時 : 令和8年2月6日(金) 15:00~16:08

場所 : 庁議室

構成員 : 三浦市長 砂川副市長

岡田教育長 杉野本委員 倉本委員 浅津委員 三浦委員

事務局 草刈教育部長 藤井教育総務課長 山口学校教育課長

石橋学力向上推進室長

## 議事

- 1 市長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

### 1 市長あいさつ

藤井課長

それでは、定刻になったため、令和7年度第2回浜田市総合教育会議を開催する。開会にあたり、三浦市長が挨拶する。

三浦市長

皆さんこんにちは。お忙しい中、今日は総合教育会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。就任して初めての総合教育会議ということで、今日は皆さんと、私の教育に対する思いも述べる時間を設けていただいております、実りある意見交換ができればと思っている。

1つ目の議題は小中学校の適正配置についてである。第1回目の際に時間の制約もあったので、本日改めてテーマ設定させていただいた。これにつきましても、皆さんから様々な角度からご意見をいただきますよう、よろしく願います。

### 2 協議事項

藤井課長

本日は傍聴者なし。

この会は市長が招集して進行することになっているため、これから先、協議事項については市長に進行をよろしく願います。

三浦市長

それでは、レジュメに沿って進めてまいりたいと思う。1つ目として、小中学校の適正配置について意見交換を行いたいと思う。まずは事務局から資料の説明をお願いする。

草刈部長

それでは、小学校の適正配置について説明する。資料は1から

5 までである。

まず資料 1 についてだが、文部科学省の学校の適正規模・適正配置の在り方に関する会議の参考資料の抜粋となっている。全国の小中学校の現状をまとめたものである。

3 ページをご覧ください。人口の推移と将来推計について、年少人口、生産年齢人口、老年人口という形で色分けをしている。少子高齢化の進行により、2040 年には年少人口が 1,142 万人、生産人口が 6,213 万人まで減少することが見込まれている。

また、総人口の 3 分の 1 以上が 65 歳以上となる。2020 年と比較すると、2040 年には年少人口で 24.0%、約 361 万人の減少、生産年齢人口で 17.3%、約 1,296 万人の減少が予想されている。高齢人口は 9.0%増、326 万人の増が見込まれる。

次に 4 ページをご覧ください。こちらは 4 段階 4 区分したグラフで、2020 年から 2070 年までの推移を示している。19 歳以下の人口は 2045 年には 1,500 万人を下回り、2070 年には約 1,100 万人まで減少すると予測されている。2070 年には 2020 年と比較して約 975 万人、47%の減少となる見込みである。

5 ページには、全国の小中学校の学校数と児童生徒数の推移が示されている。平成元年から令和 6 年までの 35 年間で、学校数は 7,647 校から 35 年で 21.7%減少している。10 年前の平成 26 年との比較では 2,728 校、9.0%の減少となっている。一方、児童生徒数は令和 6 年と平成元年の比較で 6,190,031 人減少、41.6%の減少となっており、10 年前との比較でも 10.2%、1,016,054 人の減少が見られる。

6 ページをご覧ください。全国の小学校における学級数の推移が示されている。標準規模とは 12 から 18 学級で、各学年で 2 から 3 クラスある規模を指す。これは複式学級にならないとか、クラス替えができるようにするための基準である。全国では約 4 割が標準規模を下回っている。

浜田市の状況は資料 3 に示しているが、令和 7 年度では小学校の 66.7%が全国平均より多く標準規模を下回っている状況である。

7 ページは中学校の状況です。標準規模は 10 から 18 学級とされている。全国では約 5 割が標準規模を下回っており、浜田市ではこれが 75%となっている。

資料 2 をご覧ください。文部科学省が示す小中学校の統廃

合に関する考え方をまとめた資料である。1 ページの小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方では、少子化の急速な進行や学校施設の老朽化、交通機関の発達、個別最適な学びと協働的な学びへの対応が背景にあるとされている。

2 ページの適正規模・適正配置の基本的な考え方では、学校は一定の規模を確保することが重要であり、適正化の検討には児童生徒の教育条件の改善を中心に行うべきとされている。

3 ページの国からの支援メニューに関しては、施設整備への補助、スクールバスなど遠距離通学への補助、教職員定数の加配といった措置がある。統合に伴う学校施設の新増築や改修は原則2分の1の補助となっているが、基本的に単独建て替えか統合のどちらかだが、なかなか統合でないと予算がつかない状況である。

また、国の方は当初予算では、予算規模を確保していなくて、補正頼みのところがあり、当初で大きく割り落されて、予算、負担金、交付金について措置される。単独建て替えだと補助が厳しい。

資料4をご覧ください。市内小中学校の児童生徒数の将来見込みである。令和7年度の現在、小学校が2,210人、中学校が1,191人となっている。令和14年の7年後には小学校が1,483人、中学校が992人になると見込まれ、小学校で727人、32.9%の減少が予想されている。中学校では199人、16.7%の減少と大きく数が減る。

この推計は令和6年度までの出生数に基づいており、令和13年度に小学1年生になる子ども達を基準としている。令和14年は令和7年度に生まれた子どもが入学する年度だが、11月までのデータを使用しており、残りの4か月程度は推計値となっている。

資料3の小学校1年生の人数が303人であるのに対し、令和7年度の出生数は200人前後である。100人減っており、人数の減がかなりのスピードで進んでいる。

資料5をご覧ください。学校の建築年数経過についてである。令和7年度では60年以上経過した学校が小学校2校、中学校が0で、全体の13.3%となっている。令和14年では60年以上経過する学校が小学校3校、中学校が2校となり、小学校で20%、中学校で25%の学校が該当する。建築年数からして建て替えが必要になってくるが、全てをリプレースできるわけではない

ため、統廃合は避けて通れない状況になっている。

以上が資料 1 から 5 までの説明である。

三浦市長

ありがとうございます。それでは意見交換を行いたい。ただいま事務局から説明があったが、これについてどのように取り組むべきか、皆さんからご意見をいただきたいと思う。順次ご指名させていただきますが、よろしいか。

杉野本委員

先ほど部長から説明があったが、全国の児童生徒数も減少している中で、資料 4 に出ている浜田市内の小中学校の児童生徒数の見込みを比べたとき、全国で 10 年間に約 20%減少しているのに対し、浜田は 7 年で 30%を超える減少率となっている。全国と比べても、かなりのペースで子どもの数が減ってきている。その結果、小学校では減少が相当なものとなり、その後の中学校もさらに減少が進むことが予想される。

また、部長も校舎の古さについて言われたが、資料 2 の適正規模・適正配置の基本的な考え方の中にも、ある程度の子どもの数が必要であり、集団の中で多様な考えを認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを養い、社会性や規範意識を身につけることが重要であると書かれている。

そうしたときに、ごくごく少ない人数の中では、適正な規模を確保することは難しいのではないか。あと 7、8 年もすれば、クラス替えもできない学校が大部分になってくるという見通しから考えると、早急的な統廃合を進めていく計画が必要ではないかと思っている。

三浦市長

ありがとうございます。それでは倉本委員お願いします。

倉本委員

これまでの経験で、学校を閉じるというのは 2 回あった。学校を閉じるというのは、地域が寂しくなるということで、つらい思いをしたことがある。基本的に、学校を閉じたり統合したりすることについては、基本的には賛成していなかったが、先ほど部長からの数字を聞くと、状況が変わってきていると感じる。また、単独での建て替えでは補助が見込めないが、統合という形であれば補助が出るという行政的・予算的な面がある。

さらに、教育そのものの面からいって、浜田市内にも複式学級を行っている学校がいくつかあるが、できれば複式学級は避けるべきだと考えるようになった。複数のクラスがある学級で、子どもたちが大きな集団の中で切磋琢磨しながら様々な刺激を受け

ながら学力をつけていくことが、子どもたちにとって非常に良いのではないかと考えるようになった。

もう1点として、最近よく言われる教員が足りないという課題がある。学校がこのように小規模で点在すると、どうしても教員の数が足りなくなる。統合することで、先ほど述べた教員定数の加配が可能になる。

こうした教育面では、子ども達にとってのメリットが大きいと  
思っている。今後やはり統廃合や学校の配置を進めていかなければ  
ならない時代が来ているのではないかと感じている。

三浦市長  
浅津委員

ありがとうございます。浅津委員お願いする。

私も適正配置は必要で希望だと思っている。地域にもよるが、  
児童が減って、子どもがいろいろなことを諦める姿を見てきた。  
入学した時には登校班で通学していたものが、高学年になったと  
きにはできなくなったり、縦割り班での掃除が、低学年のときは  
できたものが、高学年になるとできなくなる。以前は世代で変  
化していたものが、今の子ども達は、6年間の在学中に短いス  
パンで変化を経験しており、自分達がしてもらったことを伝えら  
れない、伝える人がいないというのは本当にもったいないことだ  
と  
感じている。

学校教育は多様性を学ぶ場でもあり、いろいろな人がいて同世  
代の人と触れ合うことは非常に大切な事だと思う。時期と具体的  
な数を決めて、適正配置を進めていく時期だと思っている。

三浦市長  
三浦委員

ありがとうございます。三浦委員お願いする。

私も適正配置を進めていく時期に差しかかっていると思っ  
ている。私の子どもも中山間地の小学校でもあり、子どもの数が非  
常に少ないという状況がある。仲良しの子が仲の良い集まりでず  
っと行くのができれば良い。やはり、人間関係がいろいろあり、  
どんどん成長するにつれて、仲が良くなかったり、極端な事を言  
うと、いじめが起きたときに、少ない人数では、捌け口がなくて  
対応できない場合もある。最低でも10人から20人程度いれば、  
違う友達と遊ぶことができるが、少ない人数だと、そのまま6年  
間ずっと一緒に生活しなければならず、これがストレスになる場  
合もあると話しを聞いたこともある。そういう事を考えると、少  
人数でクラスがずっと続くのは、子どもの成長や教育の面から  
も、統合できるところがあるのであれば、どんどん進めていった  
方が良いのではないかと  
思っている。

三浦市長  
岡田教育長

ありがとうございます。岡田教育長お願いします。

私も任期中に学校統合を経験した。その過程で、地域にとって学校が地域活動の核になること、地域の子どもがいることで地域が元気をもらおうといった側面があり、学校がなくなることへの抵抗感は大きいと思っている。

教育委員会としては、地域の皆さんで子どもを育てていただきたいという思いを持っている。しかし、本当に子どもの教育効果を考えたとき、少人数で目が行き届くことも大事だが、私は子どもがある程度の規模の集団の中で、揉まれながら良いことだけでなく、我慢することも考えていく必要があると思っている。それが教育に繋がっていくと考えている。

子どもにとって一番良い環境を考えた時に、文部科学省が示すように、例えば、子どもの事でいろいろな事がある。どうにもならない事が起きるかもしれない。しかし、次の学年に進めばクラス替えができるとか、先生方が1学年1担任だと悩みを抱え込みやすいのに対し、2人いるといろいろな相談ができるとか、ある程度の規模でメリットがある。

学校全体を見たとき、適正配置をどうしていくかは避けては通れないのではないかと考えている。資料3の学級数を見ても、複式学級の学校も出てきている状況なので、こうした規模についてはしっかり議論していく必要があると考えている。

三浦市長  
砂川副市長

ありがとうございます。砂川副市長お願いします。

今皆さんがおっしゃったように、統廃合は避けて通れないという認識である。副市長という立場から申し上げますと、現在美川小学校の建て替えを進めているが、先ほどもあったように、国の予算が確実に付くわけではなく、石見小学校でも建て替えの設計を令和8年度に入る予定だったが、先般議会にも統廃合を含めて石見小学校の取り扱いをどうするかという議論をさせてほしいということで、議会の了解をいただいている。

今後進めていくには、地域の皆さんのご理解が不可欠だが、勘違いかもしれないが、旭小学校を建てる時に、今市小学校と和田小学校だったのを和田の皆さんは、そこまで統合することに抵抗がなく、旭小学校にという思いを出されたと伺っている。そういう地域があったという事もしっかり皆さんに説明して、今なぜこのようなことが必要なのか、あまりゆっくりはしてられない。学校の状況を見ても複式学級が出てきているなど、しっかり議論

三浦市長

してやるべきだと考えている。

ありがとうございます。今皆さんから意見を出していただきたいが、互いにご質問や、さらに深掘りしたい点はあるか。

三浦委員

先ほど教育長のお話を聞きながら思い出したが、今年の11月ぐらいに、東京でプレーパークを運営している方のお話を聞く機会があった。その方が、今と昔の子どもたちと大人の関係の違いについて話しをされていたのが、昔は子どもの数に対して大人の数が少なかった。今は大人の目が多すぎて、逆に子どもが気持ちよく育てていない、縛られているというようなことだった。まさにそうだと思いますが、今教育長の話の中に出たが、同じような形で大人が多ければ多いほど、安全だという面はあるが、子どもが思いっきり羽を伸ばし切れないとか、そうしたことが子どもの成長には大きく関わってくるのではないかと思う。

三浦市長

ほかに何かあるか。

杉野本委員

先ほど教育長も言われたとおり、一つの学年に複数のクラスがあるような学校の規模までいけると良いという思いがある。自分は複式学級から、学年で5クラスまである規模の学校も経験してきた。

複式学級だと、自分の学年の教材研究をするにしても、他校との情報交換がしづらくなる。逆にクラスがいくつもあると、同じ教材をやり取りするとか、教材研究が効率的になる。その効果が子どもに還元され、より質の高い授業を受けることができる。

また、行事についても、同じ学年で関わりを相談しながらより充実した学校生活につながる。子どもの不登校も増えている中で学校の満足度を高めていくのは大事な事で、クラスで上手くいかなかったときに、クラス替えができることは、学校に行きにくい子どもにとって人間関係に苦しんでいる子にとっても仲間がいる学校規模までいけると良いと思う。学年一つだけでも統合も視野に入れていく、子どもの減り方にもよっては、学年一学級数年後には、複式の心配も出てくる。少なくとも二クラスあるような学校規模を目指したいと考えている。ただし、浜田市は旧那賀郡を含めて面積が大きいので、通学に係る時間の負担などを考えると、すべてがそこまで求められるかは難しいところもある。

また、いろんなところで考えていく必要がある。

三浦市長

ありがとうございます、その他いかが。

倉本委員

先ほど三浦委員がおっしゃったことに、なるほどと思ったの

三浦市長  
浅津委員

は、子どもの数が少なすぎて、大人がいっぱい構ってしまい、子どもが上手く成長しにくいところである。

浜田高校で、学級担任がローテーションで1か月ごとに変わる。A担任が1か月、B担任が1か月というように、あまり生徒と接触する時間が少なくなり、親密度が低くなっていく。生徒は誰に相談するかというと、生徒同士で相談し、大人に相談せずに子ども同士で問題を解決していこうとする力がついてくる。メリットとしては、生徒の自主性が育っていくということが見えてくる。

教育委員会からいただいた冊子にも、クラス担任制について実験でやっている話が出てきて、同じようなことが書かれていた。人数が多ければ、教員も周ることができ、逆に少なすぎると全てが目に入ってしまう、手をかけすぎて困ってしまう。そのバランス取りは難しいが、多ければメリットも出てくる。

ありがとうございます。ほかに何かあるか。

複数学級あるメリットについて感じているが、小学校から中学校に上がる時に、リセットして何とか学校に行けるようになり、人間関係をうまく作り直すことを考える保護者や子どももいる。それが待てない、2年生でつまずいてしまったとしても、ずっと人間関係がそのまま続いて、中学校に入るタイミングまで変化がないというのは本当にもったいない時間である。できればもっと早い段階で、人間関係を修復したり、そういうきっかけがあればいいのという思いを持っている。複数学級があった方が不登校だったりそういうところにもメリットや良い影響があると思う。

三浦市長  
岡田教育長

教育長お願いします。

中学校では部活動について、地域移行を考えているが、平日は移動の事を考えると自校で活動を続けていくという事を当面考えていかなければならない。そうすると、学校規模がどんどん小さくなっていくと、特に団体競技については成り立たなくなってしまい、やりたい子どもが自分のやりたいことができなくなるデメリットもある。

合同部活動で隣の中学校と一緒にやるといっても、休日はやりやすいが、平日に別の学校に行くことになるなど、ある程度の学校規模は特に中学校では大事ではないかと感じている。

教育環境の面で、特別教室のエアコン整備や体育館のエアコン

整備など、大きな課題がいくつもある中で、避難所なので全部やることは大事だが、子ども達の活動を考えるとそうした投資をする上でも、投資の集中という観点から、統廃合は考えていく必要があると思っている。

また、小学校と中学校が一緒になって義務教育学校のようなものもあり、県内の事例もある。教育効果を考えるときは、そうしたものや、あるいは将来的なことになると思うが、学校だけではなく他の施設との複合化なども考えていくことで、子どもたちにとって本当に教育効果を上げるような機能と一緒にすることができれば、考えていく必要があるかと思っている。

砂川副市長

これは私的な話しだが、知人の子が小学校の時にクラスに馴染めなくて学校に行けなかった時期があったが、クラス替えをしてもらったら、うまく馴染めたという経験がある。そのようなことから、複数学級というのは重要だと感じた。子どもの性格によって、グループは当然できるので、全てが解決できるわけではないが、選択肢もあるし、ただ浜田の場合は、学級数が維持できる場所が限られるのではないかと感じる。

三浦市長

ありがとうございます。皆さんの発言を伺っていると、子どもにとっての環境が何か、そのメリットを一番最初に考えるというスタンスを改めて感じる。

数値的な状況を見ると、現在の状況を維持していくのは難しいということが皆さんのほぼ総意に近い形で発言されたと思う。その中で複式学級の難しさ、生徒間の小規模学校における人間関係の改善の難しさ、地域の方々の理解といった課題を統合の方向性を考える中でどう解決していくかを考えていく必要がある。

教育長からもあったが、小中の一貫的な新しい形での学校を考えると、他の機能との複合化など、どこどこをどうするか議論だけでなく、子ども達にとって教育効果がどのようにもたらされるのかという観点から、かたちを考えていく議論が必要ではないかという話しだったと思う。

この件について、別の角度から皆さんで議論されておきたい点があるか。

各委員

特になし。

三浦市長

意見が出尽くしたということで、このテーマについての意見交換は一旦終了したいと思う。

では、続いて2つ目のテーマに移りたいと思う。教育委員の皆様

さんの前で述べるのは恐縮だが、私から、教育に対する思いについて、私なりに述べさせていただきたいと思う。

選挙というのは、何を浜田市に、どんな価値を作っていくのか、私はこんなことを大切にしたいと、市民の方々にお約束する場だと思っている。その中で、私は人というのが一番まちにとって大切な資源であると、この人を大切にすまちをつかっていきたいと述べてきた。

人も自分で自ら考えて行動して、人と繋がりながら信頼を育んでいくことを自治だと考え、自分たちで自分たちのまちをつかっていくには、自分たちで考えて行動して、人と繋がりながら行動の効果を高めていく、そういう人の繋がり連鎖を生み出していかなければならない。これがまちづくりにとって非常に重要だと訴えてきた。

一人一人の力をどのように100%、110%、120%にしていくかを考えていくとき、教育というテーマが出てくると、多くの方々は教育という言葉に惹かれて、教育委員会や行政、学校を思い浮かべる。

しかし、人を育てていくときに、教育に関わる人は、学校だけなのか、行政だけなのか、教育委員会だけなのかというと、そうではない。家庭教育や社会教育という言葉があるように、家族や友人知人、勤めている会社など、様々なセクターが一緒になって、その人に関わりながら人をつくっていく必要があると思っているので、まち全体で取り組む最大のプロジェクトとして、人づくりをやっていこうということを市民の方々にお約束をした。

教育をしっかり頑張っていこう、これは何の分野にしてもそうだが何かをやる時には、お金も人も必要だが、コストの面だけで判断する領域ではなく、しっかり人に投資をする、そこに力を入れることは、骨太のまちをつかっていく、非常に重要な土台づくりに欠かせない部分だと思っている。

私は教員の資格を持っているわけではないが、何かを学ぼうとするとか、何かを知ろうとするというのは、決してその正解を求めるとは思っていない。広い意味で、趣味で花瓶に花を生けるといった趣味があるが、何々流とかではなく、自分が摘んできたり、人からもらった野花だったり、自分が好きなように、自分の選んだ花瓶に入れて、こちらがいいかな、今度はこうしてみようと試行錯誤する。自分なりに理解をしたり、意味を見出す

ことが学びではないかと考えている。

広い意味でいけば、学校で公式を習うとか正解の出し方を習うという、ある種の正解に導いていく手法を学ぶことは非常に重要だと思うが、それにとどまらず、自分なりの意味を見つけていくことが学びや教育の本質ではないかと思っている。

そうした思いを持ちながら、まちとして育ち育てる浜田を作ろうと考えている。自分自身が自己研鑽しながら主体的に、こんなふうになりたいと思って育っていくことはもちろんである。人の繋がりが、その人を育てていくということは自分の経験からもそう思っており、自分もたくさんの人や経験に育てられたということ振り返れば、互いに育て合える、育ち合う双方の関係というか、コミュニケーションが非常に重要になってくる。

教育には、そうした双方向の営みが欠かせないのではないかと思っている。家庭においては子どもだけでなく、子どもが育つ中で大人も育っていく。浜田市では「共育」という事業をやっているが、まさに一つのアクションの中で、誰もがお互いに学び合うということを追求していくことが、教育を考えると大事ではないかと思っている。

そうした関係を大事にすることと、関係を育むことと、先ほど申し上げたような意味を育んでいくことを自分なりに傘というか教育という分野の中で私自身を大事にしたいと考えている。こうしたことにアプローチするその過程そのものが教育だと思っている。その過程や結果だけでなく、プロセスにも教育や学びの大事な部分があるのではないかと思っている。

学びや教育というものがどこで行われているのかと考えたとき、一番最も大事なものは学校という社会だと思う。子ども達にとって小学校や中学校の学校という社会は、彼らの価値観を形成する上で非常に重要な場所である。学力を養う場であり、自分の存在意義を見出していく安心できる場所であり、人と人との関係性を築いていく重要な価値感形成する大事な場所だと思っている。

人間は一人では生きていけない。信頼を獲得しながら生きていくのだということを、作家の井上ひさしさんが述べているが、学校に通うということは、学校という社会に身を置かれているということなので、その社会の中で自分がどういう役割を果たしていくのかということ子ども達も考えている。

学校を卒業すると、学校という社会がなくなり、自分達は一人

ではなく、どの社会に所属して生きていくのか、そのときに世界が広がる。その社会との接続を、仕事をする中で社会に貢献しながら、自分の価値感を見出していくということがキャリア形成ではないかと思っている。

学校というのは、子ども達にとっては最も身近で最も大きく、最も近くにある大事な社会である。そこで自分の価値感を形成していく非常に重要な場であると思うし、そこでご指導いただいている先生方は、専門的な知識を有しながら、日々その現場に向き合っている。様々なところから、その先生方の大変な状況を耳にしているが、改めて敬意を表しながらも、子どもたちの目線からいえば、先生方は大事な価値感形成の場になっていると思っている。

そうした先生方が子どもたちと向き合っているその学校という社会を、行政としてどうサポートしていくかは、大変重要な市としての、或いは教育委員会としての、また行政としての非常に重要な役割ではないかと思っている。

子どもたちが24時間学校で過ごしているわけではなく、反対側にある部分では、社会や家庭といった場所でも同じように、その社会に所属しながら家族という社会の中で自分の役割を学んでいくわけで、家庭教育というのは、大事な部分だと思っている。

兄弟や家族、親族といった人たちと関わる中で、まずその安心感や自分がそこに存在しているということが一番に感じる、最も身近なコミュニティだと思っている。

その中で全ての家庭において、みんなが安心感を感じられているかということ、そうではない社会問題が様々にあり、経済的に不安定な家庭が増えているとか、教育環境が良好でないというケースを耳にするようになってきた。

行政が家庭に介入することは非常に難しいが、子どもたちの権利をしっかり守るという観点からは、行政も子ども達をしっかり守っていくという社会インフラを提供する立場として、重要な役割を担っていると思うので、そうした支援を丁寧に積み重ねていく必要があるのではないかと思っている。

もう一つ、社会教育についてである。社会教育を学校教育以外ととらえることもできるが、私のとらえ方としては、学校を含めて社会教育という大きな全体的なものがあり、その中に学校教育や家庭教育があるのではないかと思っている。

学校教育と家庭教育を繋ぐ役割を果たしたり、それを支える役割だったり、非常に大きな可能性と力を有していると思っている。

議員のときも、コミュニティ・スクールの仕組みを導入しませんかという提案をしたことがあった。ようやくコミュニティ・スクールが全市で始まり、この仕組みが本当に機能していくことに大きく期待しているところである。

それぞれの地域で、コミュニティ・スクールの仕組みを使った取組は、進度はまだ様々あるように聞いているが、それぞれの地域がそれぞれの学校が特色を持って、それぞれの子ども達に目を向けながら、最適な、良質な活動地域で生み出されていくことに大いに期待しており、まちとしても行政としてもしっかりそれを応援するスタンスを持ち続けたいと思っている。

地域の中での文化や、地域独自の体験というのは、子ども達にとって大事な価値感形成に繋がるものだと思っている。そうした活動を通じて、地域も自分達のまちにある資源を見出したり、そうした教育効果が大人の方にも別の形で生まれてくるのではないかと考えており、再三にわたって述べているが、非常に期待する取組の一つである。

学校教育も社会教育も家庭教育も、どれかをやれば子どもが育つのではなく、全てが必要である。先ほど各委員の方々が、子どもにとって何が一番いいのかということを目を述べられ、大変すばらしいと思いつながり聞いていた。

誰にとっての教育行政なのか、誰にとっての教育の振興なのか、誰にとっての学びの創出なのか、どのような学びが子ども達にとって、その将来の人格形成や価値関係性に意味を見出す行為なのかということを目を、皆さんが子ども主体に発言をいただいていることに感銘を受けるとともに、こうした教育委員の方々の存在の大きさを実感したところである。

兎にも角にも、それぞれのセクターがしっかり連携しながら、それぞれで効果を発揮していくという体制を、まちとして作りながら、人を育む、育み合うまちを、ぜひ一緒に作っていきたく目をしている。

私はこうした思いを持って、市長になったからではなく、議員をやりながら一市民として浜田に関わりながら、ずっと思ってきたことなので、そうした価値感を皆さんで共有しながら、市長と

して市役所として、どういうことができるかという観点で、そうした価値感の形成に関わっていきたいと思っている。

娘が1歳4か月なので、こうして資料を読むと、何年後には小学校が何クラスだろうかと、具体的には話しではないが、身近な小学校が今後あるのかなとか、自分が行っていた母校がこんなにクラスが少ないが、同じ校区だが娘が入学するときにはあるのかと、より身近に思うようになった。

そうした中で、今まだ保育園だが、保育園に通って、いろいろなことを覚えてくる。日々の成長がこんなにも凄いのかと、実感しながら、彼女の発する言葉がどんどん増えていくとか、今まで見ていなかったものに興味を持つとか、そうした日々の変化というのが非常に興味深く面白いなど思いながら、子どもの成長を見ながら、自分はどんなに成長しているのかと自問自答しながら、生涯学習に励んでいきたいと思っている。

以上です。今後ともよろしく願います。

感想を求めるという形になってはいますが、ぜひご意見、感想があれば、よろしく願います。

杉野本委員

学校も含めた社会教育という大きくとらえ方というところが、本当に今私たちが進めているコミュニティ・スクールをはじめ、地域と一緒にやっていこう。子どもは地域の中に主体的に子どもとして育てられ、地域で子育てしようという部分で、教育長も市長も皆同じような考えを持っておられることが確認できて、大変嬉しく思った。

私達が自分の思いを伝えさせてもらったが、すごくプラスに受け止めてくださり、またやりがいを感じる。

今日は本当に丁寧に考えを聞かせていただいて、ありがとうございます。よろしく願います。

三浦市長  
倉本委員

ありがとうございます。倉本委員お願いします。

ありがたい話を聞かせていただいた。今、コミュニティ・スクールが始まったということで、徐々に進むだろうと思うが、その一つの主となっているのが、ふるさと教育というのがある。以前はなくなるのではないかという心配をした時期があったが、各小中学校でこうした教育が取り組まれているので、いわゆる地域の教育力がそこで発揮できる場面かなと思っている。

当然コミュニティ・スクールとしての働きもあると思っている。

それと、先ほど市長が個人的に、娘さんの話をされたが、今、

学校を見学させてもらっている。小学生などを見ていると、こういう時期があつて、だんだん成長していくんだというのが見えてきて、この子らがいろいろなことで成長してくれたらという思いを感じている。

小学校や中学校を見に行ってもらうと、この子たちのために自分達は何ができるのかというのを、いろいろ考えるきっかけになるという気がしている。

ありがとうございます。

浅津委員

市長から学校が価値観形成の場所だという話があつて、私もまさにそう思うが、子どもが大きくなって社会に出て仕事をするというのは、本当に社会貢献そのものだと思うので、その価値観を形成する小中学校というのは本当に大事な場所だなという気持ちを新たにした。

コミュニティ・スクールの話と、あとまちづくりのプロセスが大切だという話があつたが、それと小中学校の適正配置の話が結びついてしまったが、適正配置もプロセスが大切だと思い、その中できつとコミュニティ・スクールも大きな役割を果たすのではないかなと思つているし、一年二年でできる話ではないため、その間にも子どもはどんどん大きくなっていくので、そのプロセスを見ることだったり、一緒に考えていくこともすごく大切になってくると思つたところである。

ありがとうございます。

三浦委員

先ほどの話しを聞き、倉本委員の話しにも出たが、幼児教育の現場で普段働いていて、普段はどうしても自分達の保育所での子ども達の姿とか、そういうことばかり目がいたり、自分の子どもにこう願いたいということが中心になったりするが、やはり子どもたちの成長の流れの中で、成長がどんどん次に生きていく、教育は次に生きていくというのが、いろいろなところに行けば見に行くほど、非常に感じる場所があつたりして、やはりそうやってその時その時の、その瞬間瞬間を見るのではなくて、やはり流れの中で見るのはすごく大切だということを、最近思つた。

それと、先ほど社会教育の傘の中に学校教育と家庭教育という考え方の話しがあり、子どもが学んでいる姿が、またさらに大人の方にも伝わって大人も学んでいくということにも繋がるという話もあつた。確かにやはり子どもが学ぶだけじゃなく、大人も

三浦市長  
岡田教育長

学ぶ、大人が学んでいる姿を見てまた子どもに良い影響が出るという、その連鎖というか、そういったところが最初の教育の連鎖、繋がるというところにやはり生きてくるというの改めて感じた。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

随分前のことを考えると、本当に兄弟が多い時代があったと思う。そういうときは大人がなかなか子ども達みんなに関われないので、子どもが自らいろいろなことを身の回りの環境から学んでいったと思う。

よく「学校、家庭、地域それぞれの教育力」という言い方をするが、それが何となく学校側に求められる分が大きくなり、学校がしんどくなってきているというのが実態じゃないかと思っている。

しかし、子どもたちが大きくなるのはやはり家庭も地域も含めて、その社会で人たちを見守っていくことが一番大事なので、そうした中で一つの仕掛けとして、コミュニティ・スクールがもう一度そのそれぞれの持っている教育力を見直してみませんか、みんなに関わりませんかというきっかけだと思う。

それで、このコミュニティ・スクールを最初に導入しよう決めて、2年ぐらい準備期間をかけてようやく今年導入になったが、その中で、まだ学校が学校に対して、いろいろなことを地域から提案されたらどうするのかと学校現場の声もあったり、地域は地域で、応援してほしいと言われていっぱいやっているのに、これ以上どうするんだというのが正直あった。

そういう、お互いに何か戦々恐々としている中から、話を重ねていって、いやいやしっかり子どものために何ができるかみんなが相談したら、何か出てくるのではないかと、まず議論するところから始めましょうという、こういう理解をするために、学校から来ていただいている社会教育主事の先生方にもお手伝いをお願いして、2年かけてようやくスタートして、今コミュニティ・スクールは本当に順調に進んでいる。管理職との面接のときでも聞いているし、急がなくていい、みんなが一番大事なことを考えてしっかり考えて、そのうち結果が出てくるのではないかということ、実際の具体的な動きも見えてきているところもある。

これが何がしかのきっかけとなって、学校と地域が繋がったり、地域は保護者と繋がりたい。そういう全体の繋がりが見え

三浦市長  
砂川副市長

てきたときに、子どもがそういうのを見て自分もいつかは社会貢献しようとか、そこが育っていくといいなという思いなので、市長がおっしゃられたように本当に、いかに育ち育てる環境を整えていくか、そのために学校ができること、学校が地域と一緒に取り組んでいくことなど、いろいろあると思っているので、そういうアイデアを教育委員会としてまた考えていきたいなと思う。  
ありがとうございます。

選挙の時から、人をつくる、地域をつくる、まちづくり、教育、これに力を入れたいとおっしゃっていた。それを何とかサポートするのが私達の立場で、コミュニティ・スクールがその一つだと思う。実際感じているのは、学校現場で働いている先生方の負荷があまりにも大きく、これをどうしたら教育に専念できるようにしてあげられるのか。保護者が悪いではなく社会全体で体制を作っていくしかない。私も40数年前市役所に入る前に学校現場で仕事をしていた。今だったらとてももたないと思うが、そのぐらい皆さん頑張っておられるのを感じている。コミュニティ・スクール等地域を挙げて学校を支えていただく。学校の今の状況も非常に小規模校になっているので、もう少し学校の数も減らして、みんなで支えられるような体制づくりも必要だと感じた。いずれにしても市長が掲げている人づくりやまちづくりを連携して進めていく必要があると感じた。

三浦市長

それぞれの感想をいただいた。本当に人が減っていくと、社会構造が変わり、自分達でできていたことができなくなってくると、誰かにそれを求めるようになり、家族でできなくなれば学校に頼られるとか、まちでできていたことができなくなると行政に頼られるとか、そういう構造が、問題というのはどこでも同じように起きているのかなと思うが、だからこそ一人一人が100%、110%の力を発揮できるように、そこに人を育てていくというのが結局は、まちの底力を作ることになると思うので、今後とも特に教育委員の皆さんには、いろいろなご経験や高い見地から、様々な角度からご意見を賜りたいと思うので、どうぞよろしくお願いする。

では、2つ目のテーマは終わった。今日の議題、協議事項についてはすべて終わったが、その他として、皆さんの方から何かあれば、発言をお願いします。

特にないか。

各委員  
三浦市長  
藤井課長  
三浦市長

特になし。

事務局からはないか。

なし。

では、本日の総合教育会議をこれで終了したいと思う。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。どうぞよろしくお願ひする。

終了 16 : 08